

盛岡視覚支援学校

研究テーマ

「自立と社会参加に向けた、一人一人に応じた指導の充実を目指して」

ー自立活動の指導に焦点をあててー
(2年研究・2年次)

1 全校研究

(1) 研究目的

幼児児童生徒一人一人の実態を自立活動の区分・項目に基づいて整理し、共通理解を深めるとともに、授業実践を通してPDCAサイクルを改善しながら、自立と社会参加に向けた自立活動の指導の充実をめざす。

(2) 研究内容

2年次…1年次の成果・課題をもとに自立活動目標設定シートを作成し、個別の指導計画に反映させる。シートや個別の指導計画をグループで検討し合い、共通理解を図る。

自立活動の時間における指導(専攻科は人間関係学)や、教科または各教科を合わせた指導のなかでの自立活動について、全校授業研究会及びグループ毎の授業研究会を行う。

(3) 研究方法

幼小学部、中学部、高等部普通科、高等部理療科、寄宿舎の5つのグループに分かれ、自立活動目標設定シートをもとに研究を進める。なお、寄宿舎は個別のQOL計画をもとに研究を進める。

(4) 令和元年度実践

①グループ毎の検討会及び授業研究会

自立活動目標設定シート・個別のQOL計画を用いて、児童生徒の共通理解を図った。研究授業と授業研究会を行った。

②全校授業研究会

参観者が協議の柱に沿って「成果」「課題と改善案」を付箋に記入したものをもち、ワークショップ形式で討議した。

提案授業 I

高等部専攻科保健理療科第1学年 解剖学
「人体の構造と機能 解剖学消化器系」

助言者：岩手県教育委員会学校教育課
指導主事 鎌田 和茂 氏

提案授業 II 高等部普通科第1・2学年

総合的な学習(探究)の時間 「自分を守るため、誰かを守るために、自分ができること」

助言者：岩手大学教育学研究科

特命教授 東 信之 氏

2 講演会(高教研講演会)

演題：「視覚障がいのある幼児児童生徒の自立と社会参加を目指して～自立活動の理論と実践～」

講師：愛知教育大学 准教授 青柳まゆみ 氏

期日：令和元年8月6日(火) 参加者：49名

3 校内研修

(1) 平成30年度筑波大学公開講座

「視覚障害教育における自立活動の理論と実際」伝達講習及び教材作成(8月1日)

(2) 手でみる博物館見学(8月1日)

(3) 北東北三県盲ネットワーク ロービジョン研修会(1月10日)

4 他の教育研究機関との連携

第71回東北盲学校教育研究大会、東北・北海道理療科教育研究会において、本校から各分科会で実践の発表を行った。

- ・小学部「墨字使用から点字使用へ移行した児童への指導実践」(教諭 遠藤 美枝)
- ・中学部、高等部家庭科「服装で自分らしさを表現する取り組みについてー着られる服から着たい服へー」(教諭 玉山 幸平)
- ・寄宿舎「一人ひとりのニーズに応じた歩行指導」(寄宿舎指導員 瀬川 佳祐)
- ・高等部自立活動「重複障がいのある生徒の手指機能を育て、自己肯定感を高めるための支援ー“つながり”を重視した自立活動を目指してー」(教諭 滝村 梢)
- ・理療科「コミュニケーション能力向上を目指した指導の工夫ー患者との信頼関係を築くためにー」(教諭 齋藤 賢一)

5 刊行物

令和元年度研究紀要(第43巻)を発刊する。